

会費の納入について

本年度の会費も年額一、〇〇〇円、郵送の方は二〇〇円加えて二、二〇〇円です。物価高の折から会も運営に大へんに苦勞しておりますので会費未納の方は十二月二十日までにご送金下さるようお願いいたします。

なお、会の振替口座は 東京一四三五六です。

事務局の町名変更

昭和四十一年一月一日から住居表示の変更が行なわれ、事務局の町名がつぎのように変わります。

前橋市城東町二丁目三番の三号

群馬県立図書館内

みやま文庫事務局



みやま文庫

会報

No. 8
40. 11. 10

昭和四十年 群馬県音楽のあゆみ 山田直次郎 共著
第三回配本 後藤重樹

本年も早や一カ月を余すだけとなり会員の皆さまもご多忙のことと存じます。

みやま文庫もおかげを持ちまして順調に刊を重ね、ここに四十年第三回配本・通巻三十号として「群馬県音楽のあゆみ」をお届けいたします。これは前橋市立女子高校教諭として永年の間、本県音楽教育にご努力を続けておられる山田直次郎先生が戦前戦後を通して記録されました貴重な資料を主にし、これに群馬大学文学部教授の後藤重樹先生が筆を加えられたものであります。

音楽モデル県としての郷土群馬の貴重な文化的歩みを知る好個の読み物と信じます。

なお、次回配本は「群馬の生物」上巻(仮題)を四十年三月頃、お届けする予定です。

内容は県内に生息する動植物をオムニバス風に語りついで、しかも学問的にも格調高いものであります。

次年度の刊行予定

- (1) 群馬の地質
木崎 喜雄 編
- (2) 詩人 篠原 朔太郎
——その生涯と作品
執筆者 渋谷国忠・東宮七男・関 俊治・山田桂三・松井好夫・岡田乃木士・神保治八・梁瀬和男
- (3) 続群馬の古城址
執筆者 山崎 一
- (4) 群馬の生物 下巻
五味礼夫 編

以上のように内定しておりますが、執筆の進捗状況等の都合で順序に変更があるかも知れませんから予めご了承願います。

姉妹文庫について

のびぎく文庫

みやま文庫の先輩格として昭和三十三年より兵庫県で当時の知事坂本勝氏の肝いりで始められた。刊行分野もただ単に郷土史部門だけでなく文芸創作・随筆等も含まれ多彩な活動を続けている。

名称の「のびぎく」は兵庫県の県花であり、兵庫県民の愛好の花である由。

申込先は神戸市灘合区雲井通七丁目四、神戸新聞会館内 会費年間一〇〇〇円で五冊配本。

岡山文庫

岡山県の郷土出版。第一期は「岡山の植物」「岡山の祭と踊り」「岡山の焼物」「岡山の古墳」の四冊。第二期は、「岡山の民家」「岡山の文字碑」「岡山の仏たち」「岡山

【訂正】

みやま文庫一七「ふるさとの風土とくらし」一頁五、六行目「なんと舩倉島に近い……海の中になるといふことは」を「白川郷に近い山の中だった。白川郷は合掌造りで知られ、岐阜と富山の県境近くである。日本の中央がこんな所になるといふことは」と訂正。一一八頁五行目「戦後に始まった方式で」を「戦後盛んになった方式で」と訂正。一二三頁四行目、八行目、九行目、一二五頁六行目、一二六頁三行目、一六行目、一二九頁二行目、七行目にある「KWH」の「H」を削除。二三四頁九行目の「二分の一以上」を「二分の一以下」に訂正。(斎藤叶吉)

同じく、二三五頁「邑楽の促成野菜と貯蔵白菜」中の表「群馬県における野菜の栽培形式」が印刷の手違いにより脱落しておりました。会員各位ならびに執筆の南雲栄治先生にご迷惑をおかけしたことを深くおわびいたします。

の動物」の四冊で近く完了の予定です。

一期の会費は一〇〇〇円。申し込み先は岡山市上伊福一三四七、日本文教出版株式会社。(振替口座 岡山四一八〇)です。

愛媛郷土叢書

愛媛県松山市の松菊堂書房(松山市大街道二)から刊行の郷土出版。愛媛大学教授を編集陣にして地誌・民俗・方言等の二十四冊のシリーズ。各巻毎に分売中。

